

そうず 寒水地区「赤堂」再建－災害流木による仏像制作

科研B：災害後の森林環境と人間の関係性を再生する芸術文化的実践－英彦山分水嶺を中心に－

(九州大学芸術工学研究院教授 知足(ともたり)美加子)



知足美加子《寒水大師と十一面觀音(災害流木)》 2020年



2025年度
進行中の
プロジェクト

杉岡製材所による流木採取

朝倉地域は 2017 年、2018 年、2023 年とくり返し豪雨災害に見舞われました。

寒水(そうず) 地区は甚大な被害に見舞われつつ死者をだしませんでした。しかし再建した家屋が再び被災し、離村せざるをえない方々もおられるといいます。地域の方々の「災害で流れた赤堂再建の願い」を受け、災害流木のヒノキで仏像を復原しました。2025 年度中に予定されている「開眼式」には、災害被災木でつくった楽器演奏(カリンバ、バイオリン)を披露できるよう準備をすすめています。



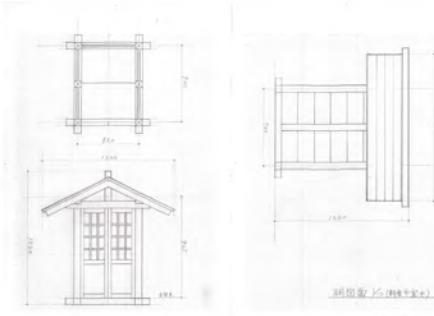
災害直後の寒水(2017年)



満生(前)寒水区長による説明



災害前の赤堂



大工池上算規による設計図



新赤堂イメージ図



カリンバ



バイオリン(林震煌)